

南山大学人類学博物館

年 報

2006 年度

南山大学人類学博物館

2006年度、南山大学人類学博物館では、文部科学省の私立大学学術研究高度化推進事業の一つである「オープンリサーチセンター」事業に応募し、採択された。これによって、2010年までの5年間、「学術資料の文化資源化に関する研究」というテーマでの研究プロジェクトが実施されることになった。

詳細は本文を参照していただきたいが、本研究プロジェクトの目的は、人類学博物館収蔵資料の整理と調査研究、そして、そうした資料をいかに活用して、社会へと還元する資源とするか、というものである。

その中で大きな課題の一つが、博物館の展示および収蔵環境に関する実験的研究である。これは、人類学博物館の諸施設を使って、様々な素材や技術を比較検討し、それぞれがどのような特性をもっているのかを実験的に確認していこうというものである。

幸か不幸か、現状の人類学博物館の展示・収蔵環境は、博物館学的に見て決して良好な状態とはいえない。だからこそ、その環境を活かして(?)、具体的な改善策を考えるためのデータを収集しておきたいのである。

考えてみれば、博物館、特に日本の場合、あまり実験的な試みを好まない傾向があるように見える。それはそれで理解できる。博物館が、資料を半永久的に保存する場であるとするならば、どのような結果を生じるかわからない実験に、大事な資料をさらすようなリスクを犯すことはできない、と考えるのは普通であろう。それだけに、従来経験に則った範囲内で、できる限り良い状況を作り出しておく、と考えるのは無理もない。

しかし、経験はあくまで、経験したことだけが基準なのであって、不測の事態に対応するにはいかにも頼りない。また、経験は客観化が難しいため、それを共有し、活用するためにデータ化しておくことが是非とも必要なことだと考えている。

そういえば、5月の連休に、愛知県美術館で伊藤若冲の展覧会を見てきたが、そこで最も注目されていたのは、屏風にあてる照明を変化させるという手法であった。

このアイデアは、若冲のコレクターであるジョー・プライス氏のもので、プライス氏によれば、日本の絵画は障子を通した光で見るとの光は朝・昼・晩で変化するので、そうした光のもとでみるのが本来の姿ではないのか、というところから来ている。

思うのは、どうしてこうしたアイデアがこれまでの博物館・美術館で出てこなかったのか、ということである。また、この展示手法に対する批判もあるという。だが、批判は批判としても、アイデアを規制し、「博物館展示はかくあるべし」という立場から物事を固定的に考えるのはいかなものだろうか？

博物館には、どこか従来とは違うやり方を拒絶する体質があるのかもしれない。そのこと自体が立派な博物館学上の課題であるが、実際に博物館運営に携わる立場としては、博物館側の「規制緩和」をいかに進めるか、に思いをめぐらせてしまうのである。

2007年6月

南山大学人類学博物館

目 次

巻頭言

2006 年度の人類学博物館の活動	3
1. 教育・普及活動	5
(1) 展示	
(2) 特別展関連行事	
(3) 講座	
(4) 講演会	
(5) 連携授業	
(6) オープン・リサーチ・センター公開研究会	
(7) オープン・リサーチ・センターシンポジウム	
(8) 見学対応	
2. 調査・研究活動	11
(1) 調査出張	
(2) 博物館セミナー	
3. 資料貸出・撮影・閲覧・他機関刊行物等への掲載	12
(1) 資料貸出	
(2) 撮影・他機関刊行物等への掲載	
4. 資料修復	13
5. 当館紹介刊行物等一覧	13
6. 刊行物等一覧	13
7. 受贈資料	14
8. 新着図書	14
9. 取材・調査のための来館者一覧	16
10. 開館日数・入館者数	17
(1) 開館日数・来館者数	
(2) 団体別入館者数内訳	
11. 日誌抄	19
12. 施設整備	24
13. 2006 年度決算報告	25
14. 組織	25
15. 規程	26
(1) 南山大学人類学博物館規程	
(2) 南山大学人類学博物館運営委員会規程	
(3) 南山大学人類学博物館資料評価委員会規程	

2006年度の人類学博物館の活動

2006年度は、人類学博物館にとって新たな挑戦の年となった。この1年間の活動をまとめておきたい。

1. 私立大学学術研究高度化推進事業の採択

人類学博物館では、文部科学省の私立大学学術研究高度化推進事業の「オープン・リサーチ・センター」事業に応募し、採択された。テーマは「学術資料の文化資源化に関する研究」であり、2010年までの5年計画で研究プロジェクトを進めることになった。

この研究プロジェクトの目的は2つである。一つは、人類学博物館収蔵の考古資料・民族資料に関する調査研究の実施である。収蔵資料中には未報告の資料が多く、また、すでに報告書の出されているものについても、刊行から長い年月がたって、現在の研究レベルで見直す必要がある。それらの資料に関する基礎的な研究は本研究プロジェクトの大きな目的である。研究の分担体制として、旧石器・縄紋部会、弥生部会、東アジア部会、人類学部会の4つの研究部会がおかれている。もう一つは、そうした資料を活用し、社会へと還元していくための資源化をいかにして図るか、ということについての研究である。具体的には、博物館学的な研究と資料データベースの作成に関する研究、そして人類学・考古学に関する歴史学的な研究を行う。これを実施するために、博物館部会、情報部会、歴史部会の3つの研究部会を設定している。

以上のような内容の研究プロジェクトだが、初年度ということもあり、いくつかの研究部会では、2006年度を準備期間に当てて、2007年度より本格的な活動に入ることにしている。そうした中で、博物館部会では公開研究会を2回、シンポジウムを1回開催し、弥生部会では公開研究会1回、シンポジウム1回、人類学部会でも公開研究会1回を開催している。また、旧石器ではマリナー・コレクションの図化作業、縄紋では愛知県保美貝塚出土資料の整理、情報部会ではデータベースのプロトタイプを作成などを行っている。

なお、本研究プロジェクトの詳細については、『南山大学人類学博物館オープンリサーチセンター2006年度年次報告書』を参照されたい。

2. 教育普及活動

教育普及活動では、2005年度に開始した博物館講座と公開講演会を継続しているほか、新たな事業として東海地方の考古学的遺跡を巡見する「フィールドワーク」を開始した。

博物館講座では春学期に「濃尾地方の考古学」と題して、伊藤秋男氏（南山大学名誉教授）、石黒立人氏（愛知県埋蔵文化財センター）、齊藤基生氏（名古屋学芸大学）の三氏に講義をお願いした。また秋学期には「モノから学ぶ生活史」として、黒沢浩氏（南山大学）、市橋芳則氏（北名古屋市歴史民俗資料館）、久保禎子氏（一宮市博物館）の三氏の講義で構成した。公開講演会は5月と1月の2回実施し、5月は久保正敏氏（国立民族学博物館）、

1月には糸魚川淳二氏(名古屋大学名誉教授)にそれぞれお願いした。フィールドワークでは、名古屋市の志段味・大久手古墳群、土岐市の古墳および古窯跡、そして名古屋市の熱田台地の遺跡と古墳をめぐり、いずれも好評であった。

だが、こうした活動を増やしていく一方で、事業の開催時期が重なったりしたことで、受講者数が分散したり、偏ったりしてしまったことは大きな反省材料となった。特に秋の博物館講座とフィールドワークが重なったことは、博物館講座の受講者数の激減になって表れた。また、宣伝力の不足もあまり改善されておらず、今後の課題として残っている。

3. 名城大学附属高校との学習連携

2006年度、もう一つの新たな試みとして、名城大学附属高校(以下、名城高校)との学習連携を開始したことがある。名城高校には、名城大学人間学部との高大一貫のクラスとして、「国際クラス」が設置されており、そのクラスの科目の一つである「異文化の理解」で人類学博物館と協力することになったのである。

その内容は、人類学博物館所蔵のタイとニューギニアの資料を使って、名城高校の生徒たちに展示を製作させるというものである。展示を製作するためには、資料についての知識だけでなく、モノの取り扱い方や、自分たちが伝えたいことを人に伝える方法など、様々なことを考慮しなければならない。そういう点では、生徒たちには具体的な資料に接する機会として、良い経験になったことと思う。

ただし、展示を製作するには、博物館と高校とが十分な準備を行う必要があり、非常に手間がかかる作業ではあった。今後、このような点を改善していかなければならないだろう。なお、ここでの成果は2007年1月に開催された博物館シンポジウム『様々な博学連携』において報告された。

4. 特別展の開催

2005年度に、水野進氏から寄贈された大工道具を取り上げた特別展「職人の道具～ある棟梁の大工道具を中心に～」を開催した。特別展は、博物館が現在のような体制となって初めてのもので、これで博物館らしい活動が一通り出揃ったといえる。

また、例年通り、本学の博物館実習生によって製作された展示が12月に公開されている。

5. 博物館実習

2006年度も、本学の学生とは別に、他大学からの館務実習受け入れを行っている。

6. 資料評価委員会の設置

博物館に対する資料寄贈の希望が多く、内容も多岐に渡るため、専門的な意見を求めると同時に、博物館資料としての適否を客観的に判断するために、2006年7月1日付で資料評価委員会を設置した。なお、規程および委員構成についてはP.26からを参照されたい。

1. 教育普及活動

(1) 展示

①特別展『職人の道具～ある棟梁の大工道具を中心に』

会期：2006年10月2日（月）～11月24日（土）

会場：人類学博物館第2展示室

展示資料

資料番号	資料名	資料番号	資料名	資料番号	資料名
MZ0120	水盛管	MZ0206a	鑿	MZ0284	引き回し鋸
MZ0179	道具箱	MZ0207	鑿（すき鑿）	MZ0301	底鉋（一寸）
MZ0180a	鉋	MZ0208	鑿（すき鑿）	MZ0302	大玄翁
MZ0180b	刃カバー（鉋）	MZ0209	鳶口	MZ0303	中玄翁
MZ0183	鉋（底鉋）	MZ0210	ボート錐	MZ0304	小玄翁
MZ0184	鉋（底鉋）	MZ0211a	墨壺	MZ0305	鳶口
MZ0185	鉋（平鉋）	MZ0211b	墨さし	MZ0306	竹鋸
MZ0186	鉋（平鉋）	MZ0212a	朱壺	MZ0307	クイックボール
MZ0187a	鉋（丸鉋）	MZ0212b	朱さし	MZ0309	隙鑿（五分）
MZ0188	鉋（際鉋）	MZ0212c	朱さし	MZ0310	鑿（たたき）
MZ0189	鉋（際鉋）	MZ0213	鋸	MZ0311	向う待ち鑿
MZ0190	鉋（空つき）	MZ0214	鋸	MZ0312	鑿（おおいれ）
MZ0191	鉋（空つき）	MZ0215	鋸	MZ0314	叩き鑿（八分）
MZ0192	鉋（際鉋）	MZ0216	鋸	MZ0315	釘抜（小）
MZ0193	鉋（際鉋）	MZ0217	鋸	MZ0316	釘抜
MZ0194	鉋（際鉋）	MZ0218	二丁罫引き	MZ0317	板錐
MZ0195	鉋（際鉋）	MZ0219	皮ひき	MZ0318	板錐
MZ0196	鉋（底鉋）	MZ0220	手斧	MZ0340	明解和洋さしがねの使い方（建築規矩術）
MZ0197	鉋（平鉋）	MZ0222	あぜひき	MZ0342	錫杖彫図面
MZ0199	鑿入れ	MZ0223	引き回し鋸	MZ0343	衝立脚図面
MZ0200	鑿（おおいれ）	MZ0225	指矩	MZ0351	板錐
MZ0201	鑿（たたき）	MZ0229	指矩	MZ0362	ノミケビキ
MZ0202	鑿（おおいれ）	MZ0230	パール	MZ0366c	竹板（錐）
MZ0203	鑿（たたき）	MZ0231	釘袋	MZ0367	錫杖彫図面
MZ0204	鑿	MZ0232	釘袋	MZ0368b	彫模様図面
MZ0205	鑿	MZ0233	割り定規	MZ0417	手水桶

資料番号	資料名	資料番号	資料名	資料番号	資料名
MZ0418	砥石	MZ0439a	函面（釣り灯籠）	MZ0443	砥石
MZ0419	砥石	MZ0439d	函面（釣り灯籠）	MZ0444	砥石
MZ0420	雪駄	MZ0442	鋸	MZ0445	砥石
MZ0421	地下足袋				

②企画展『日常の道具』

会期：2006年10月2日（月）～11月24日（土）

会場：人類学博物館ロビー

展示資料

資料番号	資料名	資料番号	資料名	資料番号	資料名
MZ0023	弁当箱	MZ0104b	アイロン箱	MZ0288j	杉板（茶箆筒）
MZ0030a	井鉢	MZ0127	香炉	MZ0288k	茶巾
MZ0030b	井鉢	MZ0128	香炉	MZ0288 l	懐紙
MZ0030c	蓋（井鉢）	MZ0129	香炉	MZ0397	おまけ（グリコ）
MZ0030d	蓋（井鉢）	MZ0136	コンパクト	MZ0398	おまけ（グリコ）
MZ0031	重箱	MZ0137	化粧品入れ	MZ0399	おまけ（グリコ）
MZ0033	しょうゆ差し	MZ0139	ミニトレー	MZ0400	おまけ（グリコ）
MZ0039	水筒	MZ0140	ミニトレー	MZ0401	おまけ（グリコ）
MZ0049	貯金箱	MZ0283a	爪皮	MZ0402	おまけ（グリコ）
MZ0050	貯金箱	MZ0283b	爪皮	MZ0403	おまけ（グリコ）
MZ0067a	箱（櫛・筭）	MZ0288a	茶箆筒	MZ0405	おまけ（グリコ）
MZ0068a	箱（指貫）	MZ0288b	抹茶茶碗	MZ0407	おまけ（グリコ）
MZ0068b	指貫	MZ0288c	建水	MZ0409	おまけ（グリコ）
MZ0068c	指貫	MZ0288d	茶筌	MZ0411	おまけ（グリコ）
MZ0068d	指貫	MZ0288e	棗	MZ0412	おまけ（グリコ）
MZ0069	絢台	MZ0288f	仕切	MZ0413	おまけ（グリコ）
MZ0078a	ニッパ－犬付灰皿	MZ0288g	茶杓	MZ0414	おまけ（グリコ）
MZ0081	下駄	MZ0288h	茶杓	MZ0415	おまけ（グリコ）
MZ0104a	アイロン	MZ0288i	杉板（茶箆筒）	MZ0416	おまけ（グリコ）

③新着資料紹介展

会期：2006年6月28日（水）～8月4日（金）

会場：人類学博物館ロビー

④博物館実習生による企画展示

1) 2006年12月1日(金)～12月9日(土)

『Let's Play☆昭和』『カマの美』『グレイブ・ストーリー』

『空想の民ニューギニア』『ヒトの超越 仮面の表象』

2) 2006年12月5日(金)～12月22日(金)

『世界の石器たち』『旅☆ろまん』『南山大学とニューギニア』

『今日は魚屋 明日は松坂屋ー近代女性の生活』『タイのモテ服』

(2) 特別展関連行事

①クラフト教室『竹とんぼづくり』

日時：2006年11月3日(祝) 14:00～14:30、15:00～15:30

参加者数：15名

(3) 講座

①2006年度博物館講座春期講座『濃尾地方の考古学』

第1回 6月10日(土) 「弥生時代の村と都市」

講師：石黒立人氏(愛知県埋蔵文化財センター)

第2回 6月17日(土) 「東海考古学事始」

講師：伊藤秋男(南山大学名誉教授)

第3回 6月24日(土) 「旧石器・縄文時代の石器石材」

講師：齋藤基生氏(名古屋学芸大学非常勤講師)

②2006年度博物館講座秋期講座『モノから学ぶ生活史』

第1回 11月11日(土) 「過去の物質文化」

講師：黒沢浩(南山大学助教授)

第2回 11月18日(土) 「昭和30年代の生活史」

講師：市橋芳則氏(北名古屋市歴史民俗資料館)

第3回 11月25日(土) 「考古学と民俗学の間」

講師：久保禎子氏(一宮市博物館)

③2006年度フィールドワーク『東海地方の考古遺跡を歩く』

第1回 10月14日(土) 事前指導

第2回 10月29日(日) 志段味・大久手古墳群

第3回 11月12日(日) 土岐市の古墳と窯跡

第4回 11月26日(日) 高蔵遺跡と断夫山古墳

第5回 12月9日(土) 事後指導

(4) 講演会

①公開講演会

第1回 5月18日(木) 18:00~19:30 名古屋キャンパス MB1 教室

「アーカイブズとしての大学と博物館：文化遺産をめぐる動き」

講師：久保正敏氏（国立民族学博物館教授）

第2回 1月11日(木) 18:00~19:30 名古屋キャンパス MB1 教室

「大昔の濃尾平野を探る」

講師：糸魚川淳二氏（名古屋大学名誉教授）

(5) 連携授業

連携先：名城大学附属高等学校普通科国際クラス1年生

テーマ：資源利用から共存・共生の環境を考える

内容：イントロダクション、タイとニューギニアの環境について

タイとニューギニアそれぞれに映像やスライドの上映会、現地調査に参加された

先生を招いてのトークショー、博物館資料を用いた講義形式の授業

班分けをし、班ごとにテーマを決めての調べ学習

調べた内容をまとめ、高校を会場に展示制作を行なう

実施内容：

9月13日 イントロダクション

・地図でタイとニューギニアの場所を探す。白地図に色を塗る、国旗を描く。

・班分けをし、班ごとにタイとニューギニアそれぞれのイメージを出し合い、イラストと文章にまとめて発表する。

9月20日 タイとニューギニアの環境

・地形、気候帯、植生、動物層など

9月27日 タイのDVD上映会

・上智大学の調査団が撮影した映像の上映、解説

・夕方に人類学博物館で調べ学習

10月4日 タイのDVD上映会

・上智大学の調査団が撮影した映像の上映、解説

10月18日 食と生業

・タイの人々の食について（米とおかず）

日本の米との比較、昆虫食、果物、堅果類、動物性たんぱく質、調味料

・食材を入手する方法（狩猟採集、家畜、農耕）

・夕方に人類学博物館で調べ学習

10月25日 ニューギニアのスライド上映会

・南山大学の調査時に撮影されたスライドの上映、解説

- 11月1日** 本学名誉教授早川正一氏によるスライド&トークショー
 ・ニューギニアの調査に参加された早川氏を招き、現地や調査についての話を聞く。
- 11月8日** ニューギニアの道具とその素材
 ・石斧や日常の道具について、素材の入手方法、加工法
 ・夕方に人類学博物館で調べ学習
- 11月15日、22日** 展示準備
 ・班ごとに決めたテーマについて調べたことをまとめる。
 ・展示手法についてのレクチャー。
- 11月27日** 展示作業
 (～29日 名城大学附属高校内で展示)
- 11月29日** 展示撤収作業

(6) オープン・リサーチ・センター公開研究会

①博物館部会公開研究会1

10月20日(金) 18:00～20:00 名古屋キャンパス **J棟P** ルーム

報告1: 里見親幸氏・小林宜文氏(株式会社丹青研究所)

「博物館の収蔵環境及び展示環境」

報告2: 角谷純一氏・山岡博貴氏(イカリ消毒株式会社)

「昆虫層を中心とした環境調査報告」

報告3: 森田稔氏(京都国立博物館)「博物館の地震対策」

報告4: 黒沢浩(南山大学)「人類学博物館の再構築」

②弥生部会公開研究会「周溝墓の研究」

10月22日(日) 13:00～17:00 名古屋キャンパス **J棟P** ルーム

報告1: 藤井整氏(京都府教育委員会)「近畿」

報告2: 宮腰健司氏(愛知県埋蔵文化財センター)「東海西部」

報告3: 黒沢浩氏(南山大学)「関東の周溝墓」

報告4: 伊丹徹氏(神奈川県教育委員会)「関東からの偏見」

③人類学部会研究会「タイ西北部山地民」

2月22日(木) 13:00～17:00 名古屋キャンパス **H23** 教室

報告1: 吉野晃氏(東京学芸大学)「タイ西北部山地民ユーミエン(ヤオ)の現在」

報告2: 量博満氏(上智大学名誉教授)「上智大学によるタイ西北部山地民の調査」

④博物館部会研究会 2 「大学博物館の可能性」

3月5日(月) 15:00~17:30 名古屋キャンパス J棟 Pルーム

基調講演:熊野正也氏(明治大学図書館)「大学博物館の存在意義」

報告:中澤文三氏(株式会社丹青研究所)「大学博物館の展示と収蔵」

(7) オープン・リサーチ・センターシンポジウム

①弥生部会シンポジウム『周溝墓研究の東西交流』

12月16日(土) 13:00~17:00 名古屋キャンパス MB1教室

12月17日(日) 9:30~15:30 名古屋キャンパス E11教室

報告1:藤井整氏(京都府教育委員会)「近畿地方」

報告2:立花実氏(伊勢原市教育委員会)「南関東地方における周溝墓研究の現状」

報告3:青木一男氏(千曲市立埴生小学校)「中部高地における周溝墓研究」

報告4:前田清彦氏(鯖江市教育委員会)「北陸における周溝墓研究」

報告5:宮腰健司氏(愛知県埋蔵文化財センター)「東海西部における周溝墓研究」

報告6:篠原和大氏(静岡大学)「東海東部における周溝墓研究」

報告7:伊丹徹氏(神奈川県教育委員会)「関東の方形周溝墓」

報告8:若林邦彦氏(同志社大学)「弥生社会を考えるための周溝墓研究」

②博物館部会シンポジウム『様々な博学連携』

1月13日(土) 13:00~17:30 名古屋キャンパス DB1教室

報告1:前田ちま子氏(名古屋芸術大学)「大学と美術館との連携」

報告2:黒沢浩氏(南山大学)「大学博物館と高校との連携」

報告3:可児光生氏(美濃加茂市民ミュージアム)

「博物館と小中学校との連携について」

報告4:石川貴敏氏(株式会社丹青研究所)「博学連携の現状」

(8) 見学対応

①一般団体

1) 名古屋市博物館ガイドボランティア 13名

実施日:2006年11月13日

2) 名古屋市立小中学校社会科研究部会 35名

実施日:2007年1月26日

3) 天白区社会科研究会 12名

実施日:2007年2月14日

②学校団体

- 1) 名古屋市立原小学校 **29** 名 (引率者 **1** 名含)
実施日: **2006** 年 **6** 月 **7** 日
- 2) 名古屋市立滝川小学校 **38** 名 (引率者 **2** 名含)
実施日: **2006** 年 **6** 月 **15**
- 3) 名古屋市立常盤小学校 **11** 名 (引率者 **1** 名含)
実施日: **2006** 年 **6** 月 **30** 日
- 4) 三重県立桑名西高校 **19** 名 (引率者 **1** 名含)
実施日: **2006** 年 **7** 月 **12** 日
- 5) 愛知県立小牧南高校 **161** 名 (引率者 **5** 名含)
実施日: **2006** 年 **7** 月 **13** 日
- 6) 私立名城大学附属高校 **23** 名 (引率者 **3** 名含)
実施日: **2006** 年 **7** 月 **22** 日
- 7) 名古屋大学博物館概論受講生 **36** 名 (引率者 **1** 名含)
実施日: **2006** 年 **11** 月 **20** 日
- 8) 中京大学付属中京高校 **40** 名 (引率者 **1** 名含)
実施日: **2007** 年 **1** 月 **10** 日
- 9) 名古屋市立千種台中学校 **1** 年生 **7** 名
実施日: **2007** 年 **1** 月 **26** 日

2. 調査・研究活動

(1) 調査出張

- ①出張先: 竹中大工道具館
出張者: 安藤さおり
出張日: **2006** 年 **8** 月 **25** 日 (金)
- ②出張先: '06 博学連携フォーラム『文化の森からの提案』
出張者: 安藤さおり
出張日: **2006** 年 **10** 月 **5** 日 (木)
会場: みのかも文化の森/美濃加茂市民ミュージアム
- ③出張先: 九州国立博物館
出張者: 安藤さおり
出張日: **2006** 年 **10** 月 **22** 日 (日)

(2) 博物館セミナー

博物館スタッフ・大学院生・学生を対象として、人類学博物館所蔵資料および人類学博物館の活動に対するアドバイスをいただく博物館セミナーを行った。

① 「研究資料アーカイブズの保存と活用における課題：民博を例として」

日時：2006年5月18日（木）15：30～17：00

講師：久保正敏氏（国立民族学博物館教授）

会場：人類学博物館学習室

② 「私の博物館遍歴－自然史博物館からエコミュージアムまで－」

日時：2007年1月11日（木）15：30～17：00

講師：糸魚川淳二氏（名古屋大学名誉教授）

会場：人類学博物館学習室

3. 資料貸出・撮影・閲覧・他機関刊行物等への掲載

(1) 資料貸出

貸出先	資料名・点数	貸出期間	目的
土岐市美濃陶磁 歴史館	大須二子山古墳出土鏡 1点・兜1点・馬具4点 高蔵遺跡出土弥生土器3点	5月9日～ 7月27日	企画展「歴史を学ぶ－縄 文・弥生・古墳時代－」 出展
土岐市美濃陶磁 歴史館	東芝製電器釜1点、 三洋製トースター1点	7月20日～ 10月17日	企画展「やきものと味覚 －近現代の食文化考－」 出展
春日井市教育 委員会	断夫山古墳出土円筒埴輪 1点、大須二子山古墳出土 円筒埴輪4点、 白山藪古墳出土埴輪3点	10月31日～ 11月21日	「春日井の古墳」出展
瑞穂区郷土史跡 研究会	瑞穂遺跡出土土器	10月20日	学習会「瑞穂遺跡を調べ て見よう」教材
京都府立丹後郷土 資料館	博物館ポスター10部、 リーフレット100部、 『館報(第2号)』30部	※寄贈	企画展「われら‘現’住 民－パプアニューギニ アの人と自然－」

(2) 撮影・他機関刊行物への掲載

機関名	資料名	刊行物名	備考
名瀬地区高等学校社会科学教育研究会	ニューギニア 精霊仮面	『名瀬地区高等学校社会科学教育研究会誌』	名城大学附属高等学校 伊勢田敬氏 2006年5月23日
株式会社エフジー武蔵	ホームページ画像	『nid』創刊号	草履の作り方 2006年6月20日
取手市教育委員会	中妻貝塚出土 縄文土器	『広報とりで』 8月1日号	2006年8月1日
行橋市教育委員会	竹並遺跡出土貝輪 1点	平成18年度秋期特別展「匠の技ー京都平野の名品展」図録	2006年11月1日
株式会社ポプラ社	花輪台貝塚出土 土偶1点	『月刊ポプラディア』2007年4月号	2007年3月15日

4. 資料修復

該当資料なし

5. 当館紹介刊行物一覧

機関名	内容	刊行物名
旺文社	概要、利用案内等	『蛭雪時代』2006年7月号
名古屋タイムズ社	展示概要、利用案内等	5月16日付名古屋タイムズ
株式会社ネオパブリシティ	概要、利用案内等	『るるぶMAP名古屋 改訂版』

6. 刊行物一覧

2006年度刊行物

『南山大学人類学博物館紀要』第25号

『南山大学人類学博物館年報 2005年度』

『南山大学人類学博物館オープンリサーチセンター 2006年度年次報告書』

『南山大学人類学博物館オープンリサーチセンター 2006年度年次報告書

付編 研究会シンポジウム資料』

7. 受贈資料

資料名	寄贈者
カンボジア農具 1 点	黒沢浩氏（本学人文学部助教授）
生活資料 23 点	堀内俊彦氏
大工道具、レコード他 76 点	水野進氏
土器 1 点	豊田鐵郎氏

8. 新着図書

(1) 購入図書

書名	編著者名	出版社名
ニューギニア・ピグミー探検	沼沢喜市	大陸書房
傜人文書	白鳥芳郎	講談社
江戸東京大工道具職人	松永ゆかこ	冬青社
大工道具入門【新装版】選び方・使い方	永雄五十太	井上書院
図でわかる大工道具	永雄五十太	理工学社
棟梁が語る「見えない刃のあと」 大工道具の本	全日本建築士会附属建築道具館	全日本建築士会
絵でみる 大工道具もの知り事典	永雄五十太	井上書院
苧麻・絹・木綿の社会史	永原慶二	吉川弘文館
編布の発見-織物以前の衣料-	滝沢秀一	つなん出版
図説 琉球の染と織り	児玉絵里子	河出書房新社
図説 着物の歴史	橋本澄子	河出書房新社
昭和モダンの器たち	佐藤由紀子、 クニエダヤスエ、泉麻人、 赤堀正俊、到津伸子	平凡社
纏足の靴-小さな足の文化史	ドロシー・コウ	平凡社
近江の民具	長谷川嘉和	サンライズ出版
石槍革命・八風山遺跡群	須藤隆司	新泉社
大和葛城の大古墳群・馬見古墳群	河上邦彦	新泉社
南九州に栄えた縄文文化・上野原遺跡	新東晃一	新泉社
泉北丘陵に広がる須恵器窯・陶邑遺跡群	中村浩	新泉社
ガラス瓶の考古学	桜井準也	六一書房
ロシア	沼野充義、沼野恭子	農山漁村文化協会
インド	小磯千尋、小磯学	農山漁村文化協会
子どもたち	須藤功	農山漁村文化協会

書名	編著者名	出版社名
ライフレビューブック-高齢者の語りの本づくり	伊波和恵、荻原裕子、下山久之、下垣光	弘文堂
現代思想 vol.13-2 (特集=博物学のすすめ 蒐められた物の世界像)	斉藤公孝	青土社
Museum, Media, Message	Eilean Hooper-Greenhil	Routledge
文化遺産情報の Date Model と CRM	ICOM CIDOC	勉誠出版
文化の「発見」 驚異の部屋からヴァーチャル・ミュージアムまで	吉田憲司	岩波書店
物の体系	ジャン・ボードリヤール (宇波彰訳)	法政大学出版
わがタイプライターの物語	ポール・オースター／サム・メッサー(柴田元幸訳)	新潮社
博物館の理念と運営ー利用者主体の博物館学	布谷知夫	雄山閣
セルフメイドの世界 私が歩んできた道	岩城正夫	アイ・エイチ
Pasts Beyond Memory -Evolution, Museums, Colonialism	Tony Bennett	Routledge
Museum and the Interpretation of Visual Culture	Eilean Hooper-Greenhil	Routledge
Colonialism and the Object-Empire, material culture and the museum	Tim Barringer and Tom Flynn	Routledge
Reshaping Museum Space-Architecture, Design, Exhibitions	Suzanne MacLeod	Routledge
異文化へのまなざし 大英博物館と国立民族学博物館のコレクションから	吉田憲司、ジョン・マック	NHK サービスセンター
ノーマライゼーションへのデザイン【多様な人々への多様なデザイン】	アルシーヴ社	INAX 名古屋ショールーム
アースダイバー	中沢新一	講談社
東北古墳研究の原点・会津大塚山古墳	辻秀人	新泉社
赤城山麓の三万年前のムラ・下触牛伏遺跡	小菅将夫	新泉社
日本考古学の原点・大森貝塚	加藤緑	新泉社
斑鳩に眠る二人の貴公子・藤ノ木古墳	前園実知雄	新泉社
聖なる水の祈りと古代王権・天白磐座遺跡	辰巳和弘	新泉社
吉備の弥生大首長墓・楯築弥生墳丘墓	福本明	新泉社

書名	編著者名	出版社名
水の道具詩	山口昌伴	岩波書店
イギリス	川北稔	東京印書館
台所の一万年 食べる営みの歴史と未来	山口昌伴	東京印書館
Sensible Objects Colonialism, Museums and Material Culture	Elizabeth Edwards, Chris Gosden and Ruth B. Phillips	Berg
Exhibiting Cultures The Poetics and Politics of Museum Display	Ivan Karp and Steven D. Lavine	Smithsonian
Cannibal Tours and Glass Boxes The Anthropology of Museums	Michael M. Ames	UBS Press
石斧と十字架—パプアニューギニア・インボング年代記	塩田光喜	彩流社
月刊 Musee Vol.78・79	山下治子ほか	アム・プロモーション
文化庁月報 18年4月号～19年3月号	文化庁	ぎょうせい
Museum Anthropology Vol.30	Council for Museum Anthropology	Council for Museum Anthropology

(2) 寄贈図書数

発掘調査報告書	一般図書・紀要・年報・図録・研究報告等	たより類
989	681	354

9. 取材・調査のための来館者一覧

来館者名	資料名・点数	実施日
土岐市埋蔵文化財センター 中瀧茂氏	大須二子山古墳出土資料	4月21日
明治大学 谷畑美帆氏	蓮池古墳出土人骨破片	6月26日
愛知県埋蔵文化財センター 川添和暁氏	大草貝塚出土腰飾り	7月7日
土岐市埋蔵文化財センター 高橋健太郎氏	近現代民具・電化製品	7月18日
奈良文化財研究所 茂原信生氏	伊川津貝塚・保美貝塚・吉胡貝塚出土資料	8月4日
春日井市教育委員会 浅田博造氏	断父山古墳出土円筒埴輪・大須二子山古墳出土円筒埴輪・白山藪古墳出土埴	9月4日

来館者名	資料名・点数	実施日
村上日高氏	車輪石・釧	10月18日
名古屋大学学生 服部修一朗氏	神明遺跡出土土師器	11月3・ 4・11日
愛知県埋蔵文化財センター 川添和暁氏	保美貝塚出土資料	1月26日
オーストラリア国立大学 ロビン・ハイド氏	ニューギニア民族資料：石製すり鉢・乳棒・ 植物資料・Aiome pygmy 資料	2月26日

10. 開館日数・入館者数

(1) 開館日数・入館者数

開館日数	総入館者数（大学の授業での来館を除く）
265	4,726

学校団体数	学校団体人数	一般団体数	一般団体人数
40	2,003	9	214

(2) 団体別入館者数内訳（学内授業以外）

大学見学

日付	団体名	人数	担当課室
4月21日	私立麗澤瑞浪高校	49	入試課
4月25日	静岡県立袋井高校	40	入試課
5月12日	愛知県立岩倉総合高校	42	入試課
5月16日	私立中京高校	30	入試課
5月24日	静岡県立静岡西高校	42	入試課
5月26日	名古屋市立富田高校	35	入試課
6月8日	名古屋市立川名中学校	79	入試課
6月20日	長野県立赤穂高校	42	入試課
7月3日	愛知県立岡崎北高校 PTA	42	入試課
7月4日	三重県立宇治山田高校	402	入試課
7月12日	三重県立桑名西高校	19	入試課
7月13日	愛知県立小牧南高校	161	教育・研究支援事務室
7月19日	三重県立宇治山田商業高校	80	入試課
7月21日	愛知県立東海商業高校	51	入試課
7月31日	岐阜県立中津高校	65	入試課

日付	団体名	人数	担当課室
8月1日	浜松市立高校	59	入試課
8月2日	岐阜県立各務原西高校	24	入試課
10月6日	愛知県立春日井高校	70	入試課
10月6日	長野県立伊那西高校	30	入試課
10月11日	東邦高校 PTA	36	入試課
10月11日	愛知県立大府高校	37	入試課
10月13日	岐阜県立多治見高校 PTA	30	入試課
10月17日	岐阜県立各務原西高校	100	入試課
10月18日	愛知県立横須賀高校 PTA	20	入試課
10月19日	愛知県立一宮東高校	38	入試課
10月23日	愛知県立杏和高校	37	入試課
10月25日	静岡県立浜松南高校	13	入試課
11月13日	私立南山高校女子部	34	入試課
12月8日	名古屋市立桜山中学校	12	入試課
12月11日	岐阜県立瑞浪高校	37	入試課
3月9日	私立東邦高校	15	入試課
3月19日	愛知県立中村高校	54	入試課
3月27日	長野県立飯田風越高校	73	入試課

大学見学以外

日付	団体名	人数
5月20日	史跡見学会	15
6月11日	立命館大学	30
6月16日	名古屋市高年大学同好会	11
11月16日	豊明市立豊明中学1年生	5
12月20日	愛知学院大学	7
1月26日	名古屋市立大江中学校	7

大学行事

日付	行事名	人数
7月16日	オープンキャンパス	614
9月30日	父母のつどい	42
10月10日	体験入学会	184

11. 日誌抄

4月

- 3日 黒沢浩本学人文学部助教授よりカンボジア農具寄贈
- 5日 実務者打合せ、ニューギニア資料整理担当者間打合せ
- 7日 新入生向け博物館ガイドツアー実施
- 11日 名古屋市立原小学校教員1名下見見学対応
- 14日 年間行事予定ポスター発送
- 17日 資料追加寄贈希望の連絡が入る
- 19日 史跡見学会下見見学対応
- 20日 臨時職員雇用申請書提出、名城大学附属高等学校との連携授業に係る打合せ
私立大学学術研究高度化推進事業への採択決定の連絡が入る
- 21日 土岐市埋蔵文化財センター中畷氏資料調査・撮影のため来館
- 22日 追加寄贈希望資料受贈
- 26日 愛知県博物館協会加盟に係る起案提出

5月

- 1日 館務実習希望学生面談、博物館シンポジウム打合せ
- 9日 土岐市美濃陶磁歴史館へ資料貸出
- 10日 臨時職員山口直子着任、オープンリサーチセンター事業に係る打合せ
- 12日 名古屋タイムス長尾氏取材のため来館
- 15日 名城大学附属高等学校との連携授業に係る打合せ
- 16日 保存処理対象資料搬出
- 17日 名城大学附属高等学校との連携授業について学生も交え打合せ
オープンリサーチセンター旅費支給に係る起案提出
- 18日 博物館セミナー「研究資料アーカイブズの保存と活用における課題：民博を例として」・公開研究会「アーカイブズとしての大学と博物館：文化遺産をめぐる動き」
開催 講師：久保正敏氏
- 22日 オープンリサーチセンター東アジア部会打合せ
- 23日 名城大学附属高校へ出張（名瀬地区高等学校社会科教育研究会総会出席
連携授業打合せ）
- 24日 オープンリサーチセンター人類学部会打合せ：量博満氏、森部一氏
- 31日 環境調査・研究業務の委託に係る打合せ

6月

- 3日 オープンリサーチセンター博物館部会打合せ、館務実習予定者来館・打合せ
- 5日 第1回経理実地調査
- 6日 オープンリサーチセンター博物館部会打合せ：里見親幸氏、川合剛氏
- 7日 名古屋市立原小学校見学対応、展示室・収蔵庫にデータロガー設置

- 7日 環境調査・研究業務に係る打合せ
- 8日 名古屋市立川名中学校 79名見学
- 9日 オープンリサーチセンター事業に係る事務方打合せ
- 10日 春期博物館講座第1回「弥生時代の村と都市」講師：石黒立人氏
本学大学院生によるパネル展『フィールドを旅する－大学院生のまなざし－Vol.1』
開幕（～24日）
- 11日 立命館大学考古学生見学
- 12日 地下南収蔵庫水道管取替え作業（施設課）
- 14日 2005年度年報入稿
- 15日 金沢大学学生2名館務実習（～28日）
- 16日 名古屋市高年大学OB11名見学対応、愛知県博物館協会総会出席（安藤）
- 17日 春期博物館講座第2回「東海考古学事始」講師：伊藤秋男氏
- 19日 寄贈希望資料土器鑑定
- 20日 オープンリサーチセンター東アジア部会当館所蔵古墳時代資料閲覧
：原久仁子氏、木村光一氏
- 21日 日本私立学校振興・共済事業団平成17年度補助金見直し調書提出（総務課）
- 24日 春期博物館講座第3回「旧石器・縄文時代の石器石材」講師：齋藤基生氏
- 26日 2007年度個別事業計画書提出、明治大学谷畑氏資料調査のため来館
- 28日 『新着資料紹介展』開幕（～8月4日）、第1回博物館運営委員会実施
- 29日 名城大学附属高校との連携授業について学生を含めた打合せ
- 30日 日本私立学校振興・共済事業団平成17年度補助金見直し調書提出（総務課）
名古屋市立常盤小学校見学対応、年報発送

7月

- 3日 名城大学附属高校との連携授業について学生を含めた打合せ
- 5日 名城大学附属高校との連携授業に係る打合せ
- 6日 オープンリサーチセンター博物館部会での環境調査のため環境モニター設置
- 7日 愛知県埋蔵文化財センター川添氏資料調査のため来館
- 9日 オープンリサーチセンター研究協力者全体会議
- 10日 名城大学附属高校との連携授業について学生を含めた打合せ
- 11日 環境調査業務委託契約に係る起案提出
- 12日 三重県立桑名西高校19名見学対応
豊田自動織機株式会社山崎氏土器を届けるため来館
- 13日 愛知県立小牧南高校見学対応、丹青研究所中澤氏展示室・収蔵庫調査（～15日）
人類学博物館資料評価委員会設立・同規程制定・博物館規程改正に係る起案提出
オープンリサーチセンター関連予算増額起案提出、資料受入れに係る起案提出
- 15日 ホームページに関する打合せ

- 16日 オープンキャンパス 見学者数 **614** 名
- 18日 土岐市埋蔵文化財センター高橋氏資料調査のため来館
- 19日 昆虫類生息調査用インジケータ配置（～8月2日）
- 20日 土岐市美濃陶磁歴史館に資料 **2** 点出陳
- 22日 名城大学附属高校 **1** 年生 **20** 名・教員 **3** 名見学対応、連携授業に係る打合せ
- 26日 博物館運営委員会規程改正に係る起案提出
- 27日 土岐市美濃陶磁歴史館より資料返却
- 31日 オープンリサーチセンター旧石器部会打合せ
：白石浩之氏、川合剛氏、大塚達朗氏

8月

- 1日 日本博物館協会アンケート回答
- 2日 昆虫類生息調査用インジケータ回収・粉塵調査実施、学内に百葉箱を設置
- 3日 ホームページリニューアルとデータベースに関する打合せ
- 4日 奈良文化財研究所茂原氏吉胡貝塚資料調査、大工道具資料に関する資料調査実施
名城大学附属高校との連携授業に係る事務方打合せ
- 5日 事務休日のため休館（～21日）
- 7日 オープンリサーチセンター博物館部会・シンポジウム打合せ
：里見親幸氏、森田稔氏、小池富雄氏、川合剛氏、アッセマ庸代氏
- 10日 ホームページリニューアルに係る打合せ
- 13日 名古屋市博物館にて東ニューギニア調査団フィルム鑑賞
- 22日 全館燻蒸の準備・実施・片付けのため休館（～31日）
名古屋学芸大学学生1名館務実習（～9月1日）
- 25日 竹中大工道具館見学出張（安藤）
- 26日 全館燻蒸実施
- 29日 オープンリサーチセンター旧石器部会マリナー石器資料撮影（～31日）

9月

- 1日 日本私立学校振興・共済事業団平成 **18** 年度補助金実績見込額申請書提出（総務課）
- 4日 春日井市教育委員会浅田氏資料調査のため来館
クネヒト先生より、博物館への寄贈資料としてニューギニア資料 **4** 点・台湾資料 **4** 点を預かる
- 7日 名城大学附属高校との連携授業に係る打合せ
- 8日 丹青研究所中澤氏来館・百葉箱にデータロガー設置
- 13日 名城大学附属高校にて授業①
- 20日 名城大学附属高校にて授業②
- 26日 次年度情報機器申請
- 27日 **2005** 年度予算執行評価報告書提出

27日 名城大学附属高校にて授業③・夕方博物館にて調べ学習

30日 父母のつどい

10月

2日 特別展『職人の道具～ある棟梁の大工道具を中心に～』開幕（～11月25日）
第2回経理実地調査

4日 名城大学附属高校にて授業④

5日 博学連携フォーラム参加（安藤 美濃加茂市民ミュージアム）
臨時博物館運営委員会開催

9日 体験入学会、父母のつどい業務報告書提出
オープンリサーチセンター博物館部会での海外出張に係る起案提出

10日 雑誌新聞総かたろぐアンケート回答

11日 大工道具関係資料調査

14日 フィールドワーク事前指導 講師：黒沢浩氏

17日 土岐市美濃陶磁歴史館より出陳資料返却

18日 南山学会、名城大学附属高校にて授業⑤・夕方博物館にて調べ学習

20日 瑞穂遺跡出土土器片貸出
オープンリサーチセンター博物館部会公開研究会

22日 九州国立博物館見学出張（安藤）
オープンリサーチセンター弥生部会公開研究会

24日 ホームページリニューアル打合せ

25日 昆虫類生息調査用インジケータ配置、名城大学附属高校にて授業⑥

26日 クラフト教室開催に係る起案提出

29日 フィールドワーク「志段味・大久手古墳群」

30日 オープンリサーチセンター歴史部会打合せ：領塚正浩氏、松田京子氏

31日 春日井市教育委員会に資料出陳、市立市川考古博物館領塚氏資料調査
オープンリサーチセンター東アジア部会打合せ
：伊藤秋男氏、西江清高氏、原久仁子氏

11月

1日 名城大学附属高校にて授業⑦

3日 南山大学同窓会ホームカミングデーのため特別開館、クラフト教室開催

8日 名城大学附属高校にて授業⑧・夕方博物館にて調べ学習・終了後打合せ
次年度活動打合せ

9日 資料整理業務委託に係る打合せ

10日 人類学博物館資料評価委員会開催

11日 秋期博物館講座第1回「過去の物質文化」講師：黒沢浩氏
オープンリサーチセンター縄紋部会土器整理準備

本学大学院生によるパネル展『フィールドを旅する－大学院生のまなざし－Vol.2』
開幕（～25日）、資料整理業務委託に係る打合せ

- 12日 フィールドワーク「土岐市の古墳と窯跡」
- 13日 名古屋市博物館ボランティア 13名見学対応
次年度臨時職員雇用時間申請書提出、丹青研究所中澤氏来館・打合せ
- 14日 次年度予算目的構成申請書提出
オープンリサーチセンター縄紋部会での学生アルバイト雇用に係る起案提出
- 15日 名城大学附属高校にて授業⑨
- 16日 豊明市立豊明中学校 1年生 5名見学対応、資料整理業務委託に係る打合せ
- 17日 昆虫類生息調査用インジケータ回収・粉塵調査実施
- 18日 秋期博物館講座第2回「昭和30年代の生活史」講師：市橋芳則氏
- 19日 名城大学附属高校へ展示ケース搬出
- 20日 名城大学附属高校へ資材搬出、名古屋大学博物館学履修生見学対応
- 21日 春日井市教育委員会より資料返却
オープンリサーチセンター弥生部会・博物館部会シンポジウム開催起案提出
- 22日 名城大学附属高校にて授業⑩
- 23日 資料整理業務委託に係る打合せ
- 25日 秋期博物館講座第3回「考古学と民俗学の間」講師：久保禎子氏
次年度予算に係る打合せ、特別展開幕
- 26日 フィールドワーク「高蔵遺跡と断夫山古墳」
- 27日 名城大学附属高校にて授業⑪（展示制作）
- 29日 名城大学附属高校にて授業⑫（展示撤収作業）
- 30日 資料整理業務委託に係る打合せ

12月

- 4日 第2回博物館運営委員会
- 5日 次年度予算申請
- 6日 オープンリサーチセンター情報部会打合せ
：鈴木志元氏、河野浩之氏、河野ゼミ学生 4名
- 9日 フィールドワーク事後指導 講師：黒沢浩氏
- 16日 オープンリサーチセンター弥生部会シンポジウム 1日目
- 17日 オープンリサーチセンター弥生部会シンポジウム 2日目
- 29日 事務休日のため閉館（～1月8日）

1月

- 9日 館内エアコン修理（施設課）
- 10日 中京大中京高校 37名見学対応

- 11日 博物館セミナー「私の博物館遍歴ー自然史博物館からエコミュージアムまでー」・
公開研究会「大昔の濃尾平野を探る」開催 講師：糸魚川淳二氏
- 13日 オープンリサーチセンター博物館部会シンポジウム「様々な博学連携」開催
- 16日 資料室にカーテン設置
- 18日 資料整理業務委託に係る打合せ
- 26日 名古屋市立千種台中学校・大江中学校見学対応
名古屋市立小中学校社会科研究部会へ講演実施・見学対応

2月

- 6日 ニューギニアと西北タイ画像資料デジタル化のため搬出
オープンリサーチセンター人類学部会公開研究会開催起案提出
- 7日 入試のため休館
- 9日 入試のため休館（～13日）
- 14日 天白区社会科研究会見学対応
オープンリサーチセンター博物館部会公開研究会開催起案提出
- 16日 考古資料撮影（～20日）
- 22日 オープンリサーチセンター人類学部会公開研究会開催
- 27日 資料整理業務委託に係る打合せ
- 28日 昆虫類生息調査用インジケータ配置、臨時職員須山成彦退職

3月

- 1日 博物館運営委員会持回り開催
- 5日 オープンリサーチセンター博物館部会公開研究会
- 7日 第3回経理実地調査
名城大学附属高校との連携授業に係る打合せ
- 16日 昆虫類生息調査用インジケータ回収・粉塵調査実施
- 19日 オープンリサーチセンター年次報告書入稿
- 21日 紀要入稿
- 26日 臨時職員吉田泰幸着任、ニューギニア画像資料デジタル化分納品
- 31日 臨時職員山崎剛退職

12. 施設整備

日付	内容
6月8日	女子トイレ配管修理
6月12日	地下南収蔵庫水道管取替え
12月22日	ポンプ室配管修理
1月9日	館内エアコン修理
1月16日	資料室カーテン設置

13. 2006 年度決算報告

→削除

14. 組織

(1) 職員

館長 浜名優美 (副学長 (教学担当) / 総合政策学部教授)

担当教員 黒沢浩 (人文学部人類文化学科助教授)

特別嘱託職員 安藤さおり

木田歩

臨時職員 須山成彦 (2月28日退職)

山崎剛 (3月31日退職)

山口直子 (3月31日退職)

吉田泰幸 (3月26日着任)

(2) 博物館運営委員会

委員長 黒沢浩 (人文学部助教授)

委員 服部裕幸 (人文学部教授 / 博物館学芸員養成課程委員会委員長)

加藤隆浩 (外国語学部教授)

大塚達朗 (人文学部教授)

渡部森哉 (人文学部講師)

新里敏夫 (南山エクステンション・カレッジ事務室長)

土屋玲 (教務課長)

後藤真貴子 (学長室企画係長)

(3) 資料評価委員会

委員長 大塚達朗 (人文学部教授)

委員 加藤隆浩 (外国語学部教授)

野口博史 (総合政策学部助教授)

15. 規程

(1) 南山大学人類学博物館規程

(目的)

第1条 南山大学学則第44条の2にもとづき、本学に南山大学人類学博物館（以下「博物館」という。）を置く。

② 博物館は、「人類学（文化資源学、考古学、民俗学および民族学を含む。）」（以下「人類学」という。）に関する資料の収集、調査、解析、収蔵、管理、保存、展示、公開などを行ない、本学の学生、職員および社会の利用に供し、教育・研究に資することを目的とする。

③ 博物館の組織および運営については、この規程の定めるところによる。

(事業)

第2条 前条第2項の目的を達成するため、博物館は、次の各号に掲げる事業を行う。

- 1 人類学に係る調査、収集、保存、管理および解析
- 2 人類学の展示および公開
- 3 人類学に関する情報提供
- 4 人類学に関する教育研究の支援
- 5 博物館所蔵資料を利用した生涯学習の企画および運営
- 6 博物館および博物館に従事する職員の資質向上に寄与する学芸員の養成

(館長)

第3条 博物館に館長を置く。館長は副学長（教学担当）とする。

② 館長は、博物館の事業を統轄し、博物館を代表する。

(担当教員)

第4条 博物館に博物館担当教育職員（以下「担当教員」という。）を置く。

② 担当教員は、博物館活動の企画・運営に従事する。

③ 担当教員は、学長が指名する候補者について、大学評議会の承認を得て委嘱する。

(運営委員会)

第5条 博物館の運営に関する重要事項を協議し、諸事全般を決定する機関として南山大学人類学博物館運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

② 運営委員会に関する規程は、別に定める。

(資料評価委員会)

第5条の2 第2条第1項第1号に定める収集事業を適正に遂行するために、南山大学人類学博物館資料評価委員会（以下「資料評価委員会」という。）を置く。

② 資料評価委員会に関する規程は、別に定める。

(規程の改正)

第6条 この規程の改正は、大学評議会の承認を得なければならない。

(雑 則)

第7条 この規程に定めるもののほか、博物館の運営について必要な事項は、運営委員会の議を経て、館長が別に定める。

附 則

この規程は、**2005年4月1日**から施行する。

附 則

この規程の改正は、**2006年7月1日**から施行する。

(2) 南山大学人類学博物館運営委員会規程

(目 的)

第1条 南山大学人類学博物館運営委員会（以下「委員会」という。）は、南山大学人類学博物館規程第5条にもとづき、南山大学人類学博物館（以下「博物館」という。）の運営に関する重要事項を協議し、諸事全般を決定することを目的とする。

(組 織)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる委員で組織する。

- 1 博物館担当教育職員（以下「担当教員」という。）
- 2 博物館学芸員養成課程委員会委員長
- 3 学長より指名された者若干名

② 委員は、大学評議会の承認を経て、学長が委嘱する。

③ 委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(所掌事項)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる事項を所掌する。

- 1 博物館の予算（案）および決算（案）に関する事項
- 2 博物館資料の収集選択に関する事項
- 3 博物館関係規程の制定または改廃に関する事項
- 4 博物館の事業に関する事項
- 5 その他博物館の管理運営に関する重要事項

(議事運営)

第4条 委員会に委員長を置き、担当教員をもってあてる。

② 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

③ 委員長に支障のあるときは、あらかじめ委員長の指名する委員がその職務を代行する。

④ 委員会は、特に定めのある場合のほか、委員の過半数の出席をもって成立し、出席

者の過半数をもって議決する。

⑤ 委員会は、必要があるときは、委員以外の者の出席を求めて意見を聴くことができる。

(事務)

第5条 委員会の事務は、教育・研究支援事務室が担当する。

(規定の改正)

第6条 この規定の改正は、大学評議会の承認を得なければならない。

(雑則)

第7条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営について必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

この規程は、**2005年4月1日**から施行する。

附 則

この規程の改正は、**2006年7月1日**から施行する。

(3) 南山大学人類学博物館資料評価委員会規程

(目的)

第1条 南山大学人類学博物館資料評価委員会（以下「委員会」という。）は、南山大学人類学博物館規程第5条の2にもとづき、南山大学人類学博物館（以下「博物館」という。）において行なう博物館資料の収集に関する事項を協議し、決定することを目的とする。

(組織)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる委員で組織する。

1 南山大学人類学博物館運営委員会委員 2名

2 博物館長より指名された者若干名

② 委員は、大学評議会の承認を得て、学長が委嘱する。

③ 委員の任期は、**2年**とし、再任を妨げない。ただし、後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(所掌事項)

第3条 委員会は、博物館資料の寄贈の申入れについて、南山大学人類学博物館運営委員会の諮問に基づき、その可否を審議、決定する。

(議事運営)

第4条 委員会に委員長を置き、委員の互選により選出する。

② 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

③ 委員長に支障のあるときは、あらかじめ委員長の指名する委員がその職務を代行す

る。

④ 委員会は、委員の過半数の出席をもって成立し、出席者の過半数をもって議決する。

⑤ 委員会は、必要があるときは、委員以外の者の出席を求めて意見を聴くことができる。

(事 務)

第5条 委員会の事務は、教育・研究支援事務室が担当する。

(規程の改正)

第6条 この規程の改正は、大学評議会の承認を得なければならない。

(雑 則)

第7条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営について必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

この規程は、**2006年7月1日**から施行する。

2007年6月13日 印刷

2007年6月20日 発行

南山大学人類学博物館年報 2006年度

編集・発行人 南山大学人類学博物館

466-8673 名古屋市昭和区山里町 18

TEL 052 (832) 3111 内線 5223

印刷 株式会社ウエルオン

460-0007 名古屋市中区新栄 3-21-31

TEL 052 (732) 2227